
北海道日本ハムファイターズGM 高田 繁氏が講義を行います

文化学部文化学科新設科目「アートプロデュース論Ⅰ」

アート・プロデュース論は、平成19年度札幌大学客員教授に就任する、作家 井上ひさし氏の構想を受けて文化学部新たに開設される科目です。この科目はアート・プロデュース論Ⅰ（春学期開講）とアート・プロデュース論Ⅱ（秋学期開講・集中講義）に分けて開講します。

芸術文化の創造活動は、その主体たるアーティストの存在なしには考えられませんが、もうひとつ、アーティストの才能を支えるアート・マネージャー（アート・プロデューサー）の存在なくしてその才能の大きな展開が容易でないことも明らかです。アート・マネージャーの仕事は、アーティストの「閃き」に資金を投入しつつ、他の才能との**コラボレーション**を展開し、人々に**感銘**を与えること、ということになります。

アート・プロデュース論では、芸術活動を展開・運営するために必要な、具体的で専門的知識と技術の学習として、映像、舞台、美術、音楽、編集、現代アートなど、広く芸術一般に関する基礎学習を行います。

この科目は文化学部学生だけでなく、他学部の学生も履修できます。アート・プロデュース論Ⅰではゲストスピーカーを多数お招きしますが、その方々が講義を行う日は一般の方々の受講も受け付けます。受け付け方法については詳細が決まり次第お知らせいたします。

アート・プロデュース論Ⅰ（春学期：4月～7月）

平成19年度札幌大学客員教授 和多田 進氏が担当します。さまざまな分野を開拓してきた人々を、ゲストスピーカーとしてお招きして、その方々にお話ししていただきます。

下記の講義については一般の方々も受講できる公開授業形式を予定しています。

《ゲストスピーカー》

4月14日 高田 繁氏（北海道日本ハムファイターズGM）

5月12日 外岡秀俊氏（朝日新聞東京本社編集局長、GE=ゼネラル・エディター）

5月26日 しりあがり寿氏（マンガ家）

6月 6日 鈴木一誌氏（ブックデザイナー）

6月30日 辻 萬長氏（舞台俳優）

7月 7日 古川恒一氏（新国立劇場 演劇プロデューサー）

アート・プロデュース論Ⅱ（秋学期：9月予定）

井上ひさし氏がアート・プロデュースという仕事の本質について集中講義を行います。